

「とっとり子育て親育ちプログラム」



ファシリテータ通信

令和2年3月9日 第2号

発行：鳥取県教育委員会事務局

小中学校課

学校・家庭・地域連携推進担当

TEL/0857-26-7521

FAX/0857-26-8170

<https://www.pref.tottori.lg.jp/katei/>

「切れ目ない・きめ細やかな子育て・家庭教育支援」を合言葉に、保護者が安心して子育てや家庭教育を行うための支援として、家庭における教育力の向上を促進するねらいで、子育て・家庭教育支援講座（年5回開催）や「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータフォローアップ研修会開催、派遣事業等を実施しました。

御多用中、講座・研修会等に参加していただいた皆様、ありがとうございました。また、平日開催となったため、「参加したいけれど、参加できなかった」方、申し訳ありませんでした。

本年度の子育て・家庭教育支援についてまとめてみましたので、今後の活動に生かしてください。

講座・研修のまとめ

《第1回》（市町村の家庭教育支援充実に向けて）〈5月21日〉

- 行政説明 「県の家庭教育支援について」小中学校課
「子育て王国 鳥取県の取組」子育て応援課
- 講演 「子育て・家庭教育支援の充実に向けて」
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課
家庭教育支援室長 齋藤 憲一郎 氏
- 情報交換 「めざす子どもの姿について」

子育て・家庭教育支援の在り方について、文科省の家庭教育支援室長からお話をいただきました。



<参加者より>

- 地域によって、子どもの周囲の環境や保護者のニーズも様々で、それに応じて、家庭教育支援の形も、いろいろなパターンがあり、課題分析が必要。そのうえで、支援員の人選をしなくてはならない。
- 保護者の関係づくりが今後さらに重要となってくると考える。場や機会の提供等、継続的に実施できる方策を考えていきたい。

《第2回》（各圏域で子育て・家庭教育支援に関する講演・演習等）

※どの圏域でも参加可能

<東部>「*教育と福祉の連携・協働体制構築*に向けて」〈7月1日〉

講演：奈良学園大学人間教育学部
教授 善野 八千子 氏

<参加者より>

- 保護者との会話方法で、身構えない相手と思ってもらうこと・しっかり話を聴くこと・一人にさせないこと・一緒にサポートすることを実践していきたい。
- 子どもの24時間を語るには、学校・家庭・地域・行政が一つになり取組が必要で、改めて訪問型支援の必要性を感じた。



<中部>「絵本で子育て・家庭教育」～親子で楽しむ絵本～〈7月6日〉

絵本の読み聞かせ・講演「心と言葉を育む読み聞かせ」
NPO法人「絵本で子育て」センター
絵本講師の会 姫路支部 支部長 中村 史 氏

東・中・西部で、それぞれテーマをもって、講座を開催しました。3つの講座に参加いただいたファシリテータさんもおられました。



<参加者より>

- 「読み聞かせが育むもの」として「聴く力」と「見えないものを見る力」とあった。今の子どもたちに不足しがちな力だと思った。
- 「興奮でなく、感動のある日常を」という話を聞いて、それぞれの年齢の育ちにおいて何を優先するべきか、よく考えたいと思った。

〈西部〉「ガマンと眠りと前頭前野」～子どもの育ちに意識しておきたいこと～〈6月1日〉

講演：東京ベイ浦安市川医療センター

CEO 神山 潤 氏



〈参加者より〉

- 寝ることの大切さについて改めて考えることができた。自分自身、子育てと仕事で疲れ切っていて子どもと一緒に寝てしまい「寝てしまった」と感じていたが、それでいいと聞いて気が楽になった。
- 勤務している園の保護者にも睡眠のことについて悩んでいる方がいるのでお伝えできたらと思う。家じゅうおやすみツアーはぜひお伝えしたい。自分も母親になったらしたい。
- 睡眠時間は個人差があることを聞いて安心した。勉強で忙しい中高生にもぜひ聞かせてやりたいと思った。

〈第3回〉：「未来とりっこわくわく大作戦」啓発フォーラム 〈8月3日〉

○全大会 公演：鳥の劇場

○分科会その4「いっしょに体を動かして親子のかかわりを考えよう」

香川大学生涯学習教育研究センター センター長 清國 祐二 氏

〈参加者より〉

- いつも以上に、たくさんの我が子の笑顔を見ることができた。子どもと共に楽しめた。
- 子どもたちが親と共にふれ合うことで笑顔がいっぱいになっていた。
- 標語づくりでは、笑顔という言葉が多く含まれていて、親子のふれあいの大切さを改めて感じた。
- 子どもの笑顔、喜ぶ姿を体験した保護者は、帰宅後も一緒に体を使った遊びを取り入れるだろうと思った。

親子のふれあい遊び（体幹あそび）をとおして、子どもとの「ふれあい」「かかわり」を学び、後半で家族に係る標語づくりに取り組みました。



出来上がった標語
～ふれあって パパママ大好き笑顔咲く
親子の笑顔成長していく～

〈第4回〉：教育と福祉の連携・協働体制構築に向けて〈9月25日〉

○講義：「児童虐待防止における教育と福祉の在り方」・事例研究

倉吉児童相談所相談課長 坪倉 嘉隆 氏



児童虐待防止で、保護者に寄り添い、不安を軽減することも大事だと学びました。

〈参加者より〉

- ファシリテータとして保護者のみなさんに、最後の話しの一つに、「家庭において、子どもに安らぎを覚えさせるためには、お父さんとお母さんが穏やかに話している姿を見せることが大事です。」と言ってきましたが、今日のお話を聞いて、これからも言い続けようと思った。

〈第5回〉：子育て・家庭教育支援の充実に向けて〈11月1日〉

○講義：～福祉と教育が協働連携した子育て・家庭教育支援～
能勢町家庭教育支援チーム「ほっこり」について

大阪府豊能郡能勢町 健康福祉部福祉課

福祉係 藤原 詩穂美 氏

教育委員会事務局 生涯学習課長 古畑 まき氏

○ワークショップ：「人と人のつながりと子育て・親育ち」
～子育て・家庭教育支援で 何ができる～



〈参加者より〉

- 教育と福祉をつなげていくことで、子どもの成長の基盤となる家庭を支えていくという取組は素晴らしいと思った。困ったときに助け合えるコミュニティづくりが大切で、普段から話せる人間関係の構築が必要だと改めて思った。
- 支援員の方の実際の話をも直接聞くことができ、自分ができることは何だろうか考えるきっかけになった。

ワークショップに、能勢町の福祉・教育担当者、支援チームの方々に参加いただきました。



鳥取県では、子どもの育ちと共に親自身も育っていく仕組みづくりや、親同士が楽しみながら家庭教育について学び合うため、平成24年度に参加型プログラム「とっとり子育て親育ちプログラム」を作成しました。

様々な場において活用いただき、親同士が子育ての悩みについて話し合ったり、子どもとの接し方を振り返ったり、楽しく交流を深めたりする中で、お互いに支え合える仲間づくりを進めてまいりました。

この度、本プログラムを妊娠期の親（プレママ・プレパパ）及び企業・地域の方を含めたさらに多くの方々にご活用いただくとともに、市町村・産婦人科の両親学級、企業内の研修や地域の集まり等を含めたさらに幅広い場面でご活用いただくために本プログラムの内容を改訂しました。この冊子が家庭の教育力の向上や学校や地域における子育て・家庭教育支援につながることを期待しています。



「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ
フォローアップ研修会 12月12日

講師：香川大学生涯学習教育研究センター
センター長 清國 祐二 氏

★講義・演習

- “本題に入る前に”
～とっとり子育て親育ちプログラム実践を通して
- 「親子遊び」から考える



午前は、親子体幹遊びの紹介や新しいプログラムの演習をおとして、子育て親育ちについて考えることができました。

子育ての楽しさを実感できていない保護者が多く、子どもと「できた」「できなかった」という体験を共有できる機会や日常的な仕組みがあることが大切であることを学びました。

午後は、地域をつくるという視点から家庭教育を考えたり、ワークショップで子育ての難しさ等、家庭教育支援で大切にしていきたいポイントをまとめたりする機会となりました。たくさんのアイデアが参加者の皆様から出てきました。

親の学び合いをサポートすること＝家庭教育支援をしていくこと（「とっとり子育て親育ちプログラム」もその一つ）が大切であるということにつながりました。具体的には、「挨拶ができる」と人間関係ができ、いろんなチャンスが舞い込んでくる！！地域の子どもたちに多くのチャンスを！！そして、幸せになってほしい！！と熱い思いで盛り上がりました。

<参加者より>



- 「親子体幹遊び」の奥深さを再認識した。私たちが親だったころには、親子遊びの1つだった。非認知能力も、こうした親子遊びの中で「心のねっこ」がしっかり身につけられるので、もっと広げていきたい。
- ファシリテータとして、子育ての難しさ、しんどさ、不安を参加者の皆さんの考えとともに再確認できた。解決方法も引き出しにいっぱいいただけた。微力ながら頑張りたい。
- プログラムをただ実施するのではなく、目的や進め方を心得て実施する必要があることなど多岐にわたって知識を得ることができた。

【事務局より】

家庭教育支援の充実のため、「家庭教育支援チーム」や「訪問型家庭教育支援」の体制構築に向けて、「子育て・家庭教育支援講座」を5回シリーズで開催し、体制づくりには、核となる者や福祉部局、教育委員会をはじめとした関係部局の連携が必要だということを強く感じました。

そうした中で、「訪問型家庭教育支援」の必要性を感じ、実施に向け検討を始めた市町村もあります。

今後も、「切れ目ない・きめ細やかな子育て・家庭教育支援」の体制構築に向けて、ファシリテータの皆様の御協力をいただきながら、県としてもできる限りの支援を行っていきたく思っております。

本年度もありがとうございました。

小中学校課 課長補佐 白岩

